

概要版

美ら島づくり花の森整備事業
基本構想・基本計画

【 阿真区 】

平成 25 年 3 月

座間味村役場 総務課
株式会社 トロピカル・グリーン設計

目 次

1章 基本構想	1
1. 上位・関連計画	1
2. 基本方針の策定	2
3. 具体的な整備方針	3
4. 基本構想図の作成	5
5. 各候補地の整備メニュー	6
2章 基本計画	7
1. 整備内容	7
2. 年次事業計画の作成	16
参考資料	17
1. アンケート	17
2. ヒアリング	19

1章 基本構想

1. 上位・関連計画

当計画に関する上位計画や関連計画を整理した。

■表 上位関連計画と関連する主な内容

	図書・報告書名/発行年月日	当整備事業に関連する主な内容
上位計画	座間味村第四次総合計画 平成 24 年 4 月 発行:座間味村役場 編集:座間味村、総務課	豊かな地域資源が永遠に守られ、人と自然環境が共生する『楽園』 村民が住み心地の良い村、観光客が又訪れたい村づくり 環境の保全ー美しい自然と生活が共生する村づくり ・花木を活用した全島緑化 地域環境美化支援事業の強化や、ボランティア事業の推進と 1 世帯 1 鉢運動の検討 ・モクマオウ等在来種を脅かす外来植物の駆除 外来植物の繁殖実態調査の実施し対策を講じる ・みどりの島から花の島へ 【阿 真 区】:サクラの植栽による桜並木 【座間味区】:高月山にケラマツツジ 【阿 佐 区】:久岳林道にエゴの並木 【阿 嘉 区】:ケラマツツジとイジュ 【慶留間区】:ケラマツツジとイジュ 野鳥やチョウのみられる林の中の遊歩道、散策道、撮影ポイントを 設ける(景観の障害となる樹木等の伐採)
	緑の美ら島づくり行動計画 平成 24 年 3 月 沖縄県農林水産部森林緑地課	100 年先を見据えた「緑の美ら島」の創世を目標に 「365 日花と緑と香りいっぱいの沖縄」づくりを展開している 「緑の美ら島の創生をめざして」 「生命あふれる緑の美ら島づくり」 「活力ある緑の美ら島づくり」 「沖縄らしい緑の美ら島づくり」 上記、4 つの目標を掲げ県土の緑化の推進のために策定
関連計画	座間味村鳥獣被害計画書 座間味村役場 産業振興課	鳥獣被害防止特措法に基づく鳥獣被害防止計画 沖縄県と事業の調整中 ケラマジカの対策(天然記念物のため駆除できない) ハシブトガラス、イノシシの駆除
	平成 24 年度阿佐地区避難道路 整備工事	津波時の避難路の整備事業 実施設計終了、H25 年度工事予定
	座間味村外来植物討伐事業	平成 23 年度から 10 年間、モクマオウの伐採を行う

2. 基本方針の策定

集落内の美化が求められている（観光客の目線）

住民が気づかない集落の景観が、観光客に評価が高いため、花で彩りをもたらすことによって美化の向上を図る事となり、訪問者の増加に繋がる。

特産品となり得る植物を増やす

ヤマモモ、パパイヤ、グアバ、シークァーサーなどの植物を増やすことにより将来特産品となる可能性が増す。（特産品は、知名度などからも一定程度の量が必要）

管理体制の構築—主体と責任を明確にする、リーダーの育成

職業など立場の異なる住民が参加しやすいグループづくり
現在、リーダーとなる人材はいるが、将来を見据え新たなリーダーの発掘と育成を事業として立ち上げサポートしていく必要がある。




景勝地や展望台などへの誘導を草花緑化により行う

景勝地や展望台といった場所（点）を沿道植栽（線）等で結ぶ

圧倒的なボリューム(量)や延長で名所を生み出す

伊江島のユリ、中城のヒマワリのように圧倒的な量、八重岳のヒカンザクラのように一定以上の延長が価値を生み出す。

■写真 先進事例写真

伊江島のユリ	北中城のヒマワリ	本部町八重岳ヒカンサクラ
		
自治体を中心となり、村をあげて活動しており、毎年数万人が訪れる。	緑肥と雑草抑制のために植えたのがきっかけで毎年規模が大きくなっている。	線(延長)としての整備事例 開花期には交通規制をして花を楽しんでいる。

3. 具体的な整備方針

1) 植物を使った島おこし

- ① 集落内を花で彩る－楽しみながら暮らせる生活環境をつくる

各戸の庭や路地の空き地などに草花を定期的に植えつける
 〈例〉季節毎に、年4回の植え替え－植替用の草花の苗が必要

- ② フルーツアイランド

シークァーサー、タンカン、ヤマモモ等の果樹を植林し
 ホエールウォッチングやサクラ祭りに加えてミカン狩りを行う
 〈例〉計画的に果樹を増やす当初は農業ではなく観光資源とする
 －定期的に植林を行うための果樹の苗木が必要
 －植林もこれまで通りイベントとして行う

- ③ モクマオウの伐採

外来植物討伐事業で今後10年モクマオウの伐採ガラの有効活用
 〈例〉炭づくり－村内のバーベキューで活用
 キャンプ場で、各種イベント時のキャンプファイヤーの燃料として活用する

2) 養蜂－座間味のはち蜜

花粉媒介者としてミツバチの導入

上項により、草花や果樹が増える事を見据え、養蜂を検討する。採蜜を行うだけでなく、ミツバチがポリネーター(花粉媒介者)として活動することにより果樹の収量も増やす事が期待できる。

3) 苗木生産

生産拠点の整備－(別事業：産業振興課－補助事業や、既存施設の補修活用)
 雇用の創出を目的とした事業展開を図る。

- ① 草花の苗木生産

(仮)集落美化事業一年4回各地区で草花の植え替え作業を行う。
 〈例えば〉観光誘致のための予算を確保し、苗を購入して配布する。

- ② 果樹の生産

フルーツアイランドに向け、計画的に定期的に果樹の苗木を生産し植林する。

- ③ 島野菜の苗木(種)生産

村外から入手していた種や苗を生産して農家に販売する。

- ④ 特殊樹(ブランド樹)の生産

村内の緑化には、慶良間で育てたケラマツツジを使用する。
 また、ブランド化することにより付加価値を付けて出荷する(海運の費用を補助)
 ケラマツツジ等の種の保全も行える。

4) 阿嘉区、慶留間区におけるケラマジカ対策

阿嘉区、慶留間区においては農作物だけでなく、屋敷内外の草花も食害を受ける状況にあることから、長期的には、植林等によりケラマジカ本来の棲息域の餌場環境を良くして人里に近づかないような対策を講じるとともに、短期的には植栽する植物や草花を物理的に被害に遭わないための工夫が必要となる。

5) 外来植物（モクマオウ等）の繁殖調査を実施し伐採等の対策を講じる

モクマオウは、潮風に強く成長が早いことから海岸防風林等に利用されそれらが徐々に増えている。そこで本来、島に生えるフクギ、テリハボク等の植物に替えていく必要がある。伐採したらこれらの苗木を植え、フクギ等の苗木が一定の大きさに達したらモクマオウを伐採するなど計画を立てて実施すべきである。

6) 植栽植物の環境圧に対する確認

植栽される場所は地形の特性上、海岸線からそれほど離れることはなく、台風などの時には潮風が吹き付ける厳しい環境にある。

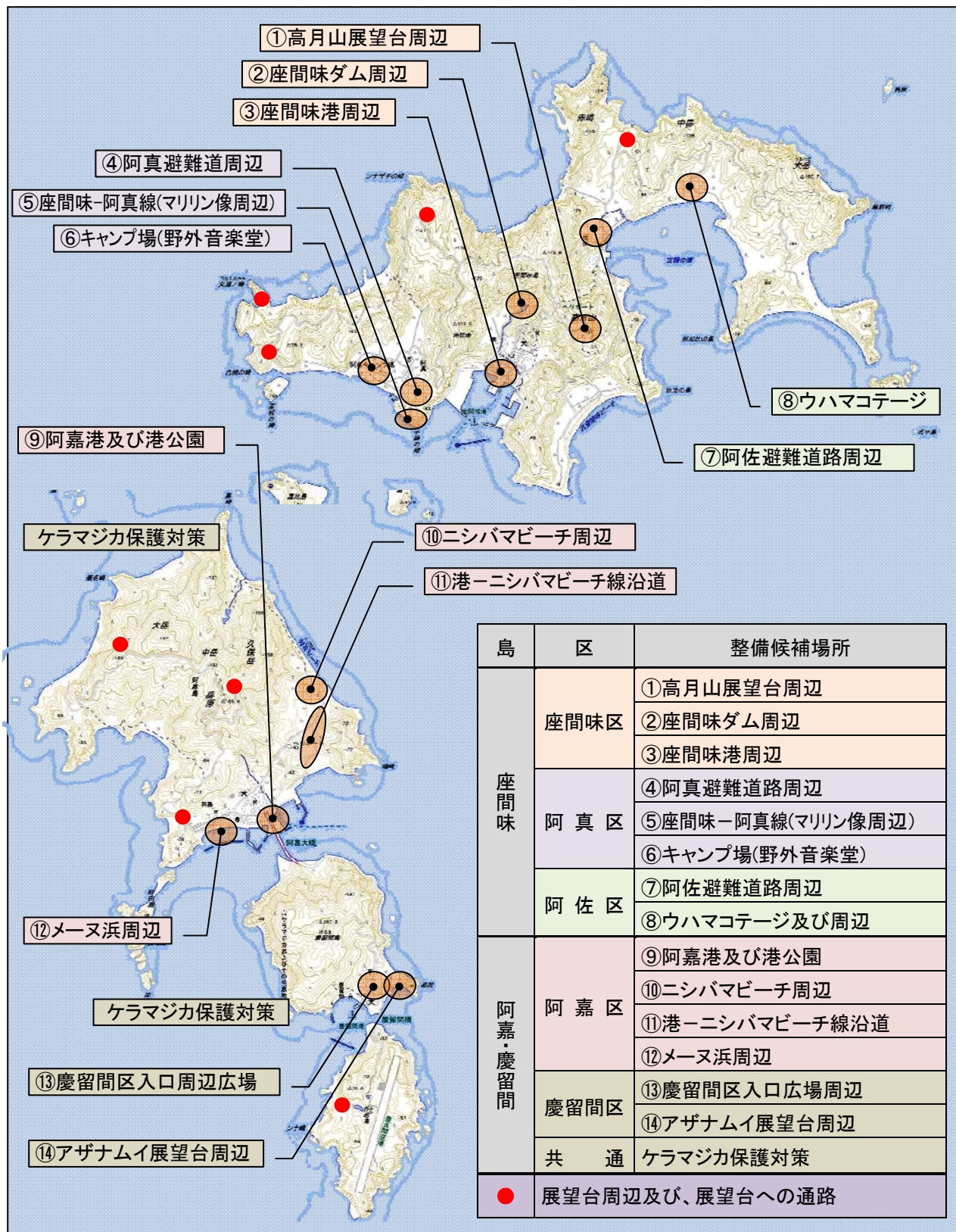
そのため、植栽植物は耐潮風性が強い植物でなければならない。そのため、具体的な場所が決まった場合は、風環境、日照条件、土質を調査し適正な植物を選定しなければならない。

なお、植栽直後は、支柱や仮設の防風ネットなどの設置も必要となる。また、阿嘉区、慶留間区においてはシカの食害にあわぬように対策を講じなければならない

4. 基本構想図の作成

各島、各区の整備候補場所として以下の場所を選出した。

■図 整備候補場所全体図



5. 各候補地の整備メニュー

■表 整備概要－座間味島

島	区	整備候補場所	整備目標
座間味	阿真区	④阿真避難道路周辺	<ul style="list-style-type: none"> ・避難路を日頃は散策路として楽しめる用に整備する。 ・既存植栽の維持管理の充実 ・枯損部に補植を行う(環境に応じた樹種選定) ・林内に果樹を植樹して冬季の観光メニューとしてミカン狩りや、将来的には島外への出荷を目指す。
		⑤座間味－阿真線(マリリン像周辺)	<ul style="list-style-type: none"> ・道路の植栽帯を緑化する。また、マリリン像周辺の道路と岩場の空気を緑化し観光地として美しくする。
		⑥キャンプ場(野外音楽堂)	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンプ場内の施設周辺を緑化し、施設の裏側や美しくない場所を遮蔽したり、これにより風環境を緩和して花木を植栽して彩りを創出する。 ・野外音楽堂の外周もフクギ等の緑の壁で囲い、野外ステージの使い勝手を向上させる。 ・流れ沿いに適した花の咲く植物を植栽して野外音楽堂のアプローチを彩る。

※表中の薄文字については優先度が低い事を示している。

■表 整備概要－全域

島	整備候補	整備目標
全域	展望台周辺及び、展望台への沿道緑化	<ul style="list-style-type: none"> ・既存植栽の維持管理を充実させ眺望を楽しむと共に周辺の山の植物や草花を楽しめる場所とする。 ・枯損部に補植を行う(環境に応じた樹種選定) ・入口部や駐車場周辺を花木で彩ると共に緑陰を確保するための緑陰樹を新植する。
	サイン(案内板)整備	<ul style="list-style-type: none"> ・当事業により魅力を増した花の名所や村内の史跡名所や展望台などの情報を観光客に伝えるための情報発信の一つとして村内全域のサイン(案内板)を整備する。
	ガイドマップ作成	<ul style="list-style-type: none"> ・上記の案内板と連動した、5 区のガイドマップを作成し各地区の魅力を伝える。

2章 基本計画

ここでは整備候補場所の中から、優先度の高い二つの場所について整備案を作成した。

1. 整備内容

① 候補地-1 阿真避難道路周辺

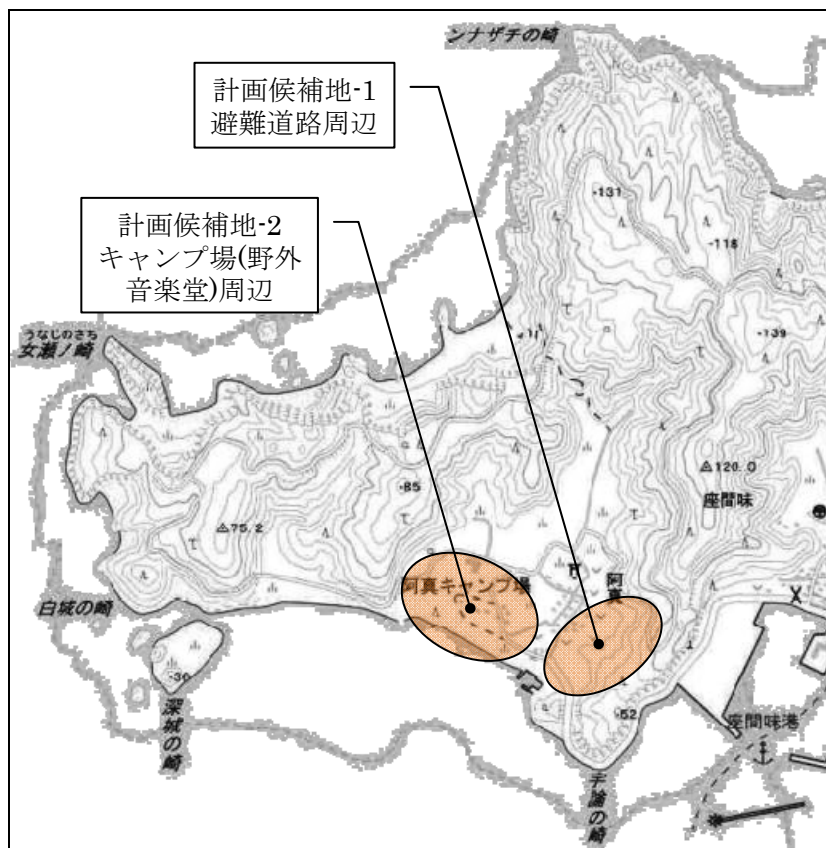
- ・「阿真チジ」を起点とする集落に下る旧道路であり座間味区へ抜ける。現在は避難道路として整備されている。

※チジとは峠の意

② 候補地-2 キャンプ場(野外音楽堂)周辺

- ・夏になると多くの客が利用する場所である。
- ・海岸防風林が整備され、広場内にもフクギやテリハボク等の植栽が行われている。

■図 計画候補位置図



1 阿真区 阿真避難道路周辺

1) 現況

①風

- ・阿真チジを背にして南南西に面していることや、樹木に囲まれた場所であるため、冬季の季節風の影響はほとんど無い。但し、集落側の入口部は、台風時には潮風が直接吹き付ける状況である。

②日照

- ・避難道の幅員は、1.5m程度で、一部間伐や下草刈りが行われているが、全体的に不十分であり植栽された植物は、日照不足の傾向が見られる。

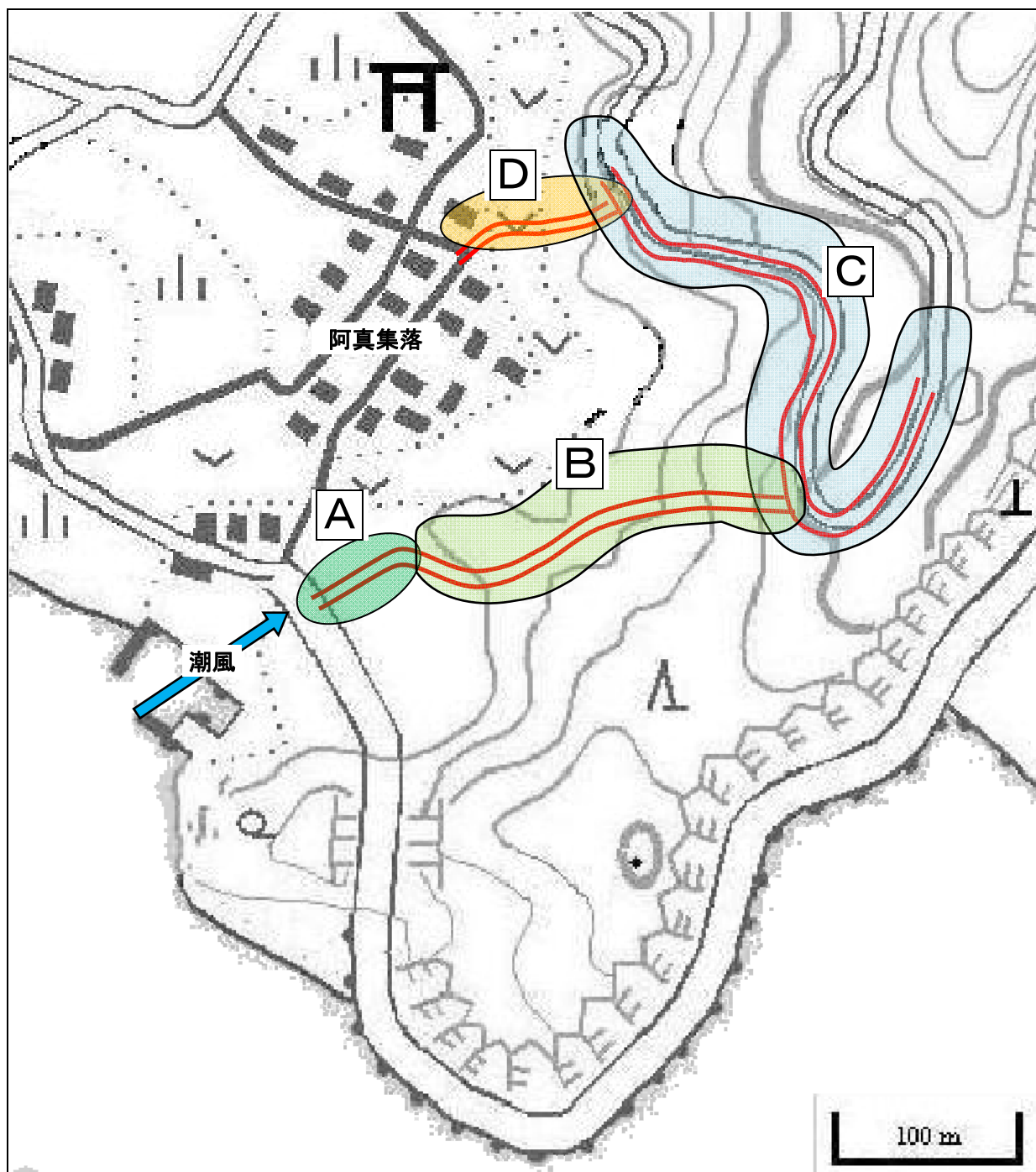
③その他

- ・ヒカンザクラ、シークァーサーの植林が行われている
- ・道路沿いにケラマツツジ、ブッソウゲが列植されているが、一部枯れ支柱の杭だけが残っている場所がある。

■表 計画概要、環境等

区分	概要	風環境	日照	既存植栽
A	入口部で、急な階段が続く場所である。	冬季季節風は吹き付けないが、台風時には潮風が直接吹き付ける場所である。	南南西に向いており概ね日照は良好である。但し、奥の方は林の樹木により暗い場所がある。	なし
B	石張り整備された園路部である。 道路沿いの林の中にシークァーサー等が植栽されている。	林の中であるため風環境は極めて良好である。	道路沿いに2~3m程度は間伐されているが、不十分で全体的に植栽植物にとっては日照が不足している。	道路沿いにケラマツツジ、ブッソウゲが植栽、一部枯損している。 全体的に徒長しているやや元気ではない。
C	既存の道路沿いにサクラが植栽されている。	冬季季節風は受けない向きである。但し、道路幅員が広いいため台風などの際には道路沿いに風が吹基抜けると思われる。	道沿いは2~3m程度間伐されているが、下草が伸びている。	道路沿いにサクラ(H=0.5~1.0m程度)が植栽されている。 角材とビニール紐による支柱又は支柱なし。
D	集落の裏手に抜ける旧道である。 道路勾配もかなり厳しい状況である。	林の中で南向きであるため環境は良好である。	大木が覆っているため全体的に日照不足である。	道路沿いに部分的にサクラ(H=1.0m程度)が植栽されているが、側面のり勾配が急である。

■ 図 平面图



■写真 現況写真

<p>写真① A 部</p>	<p>写真② B 部</p>
 <p>・急な擬木階段、奥は海が望める。</p>	 <p>・石張りの歩道舗装がなされているが、雑草が歩道部まで伸びている。</p>
<p>写真③ B 部</p>	<p>写真④ B 部</p>
 <p>・ケラマツツジは、全体的に徒長している。 ・日照により花付きの良悪がみられる。</p>	 <p>・植栽樹木のブツウゲが、全体的に暴れている。</p>
<p>写真⑤ C 部</p>	<p>写真⑥ C 部</p>
 <p>・道路両側にサクラが植栽されている。</p>	 <p>・同左、土壌は固く肥料分が極めて少ない状況である。 ・支柱が設置されていない。</p>

2) 具体的な整備内容

1. 既存植物の健全化計画

- ① 間伐、下草刈りによる日照不足の解消
 - ・現在も、一部行われているが、不十分で植栽植物が徒長気味である。
 - ・間伐の必要のある範囲を決めて伐採作業を実施する。また、定期的に道路の両側 3m程度の下草刈り、シークァーサー等の植林部の下草刈りを行う。
- ② 肥培管理
 - ・植栽植物を確実に活着させ健全に生育させるために定期的に施肥を行う必要がある、また、状況に応じて害虫の駆除などを行う必要がある。
- ③ 刈り込み管理
 - ・道路沿いのツツジやブッソウゲは、定期的に刈り込みを行う事で、樹形を整え景観を維持すると共に、台風時の風当たりを軽減する必要がある。
- ④ 支柱の整備
 - ・現在、角材やビニール紐等で仮設的に支柱が行われているが、幹や枝を傷つけてしまっている、きちんとした支柱を建て直す。

2. 補植

- ① ケラマツツジやブッソウゲの枯損箇所は補植を行う。
- ② 必要に応じて、ヒカンザクラの植栽を行ったり、果樹を植栽する。
果樹の植栽により、蝶や小鳥も訪れ楽しい散策路として散策路としての価値を高める。

3. 花木・野菜等苗木生産事業計画

- ① 植栽材料の確保
 - ・村内の植栽材料は、できる限り村外から持ち込まないようにする。
- ② 生産拠点の確保
 - ・阿佐区にある既存の施設を活用する。
 - ・産業振興関連の補助等を活用した新規設備の導入を検討する。
- ③ 事業主体の確率
 - ・事業主体や責任者、事業計画を作成する。
(単年度毎、又は 10 年後を見据えた内容とする事が重要である。)

② 阿真区 キャンプ場及び野外音楽堂

1) 現況

- ・海岸防風林は十分にその役目を果たしている、但し、モクマオウが台風の影響で枝折れや立ち枯れの状態で見苦しい。
- ・園内植栽もフクギや、テリハボク等の潮風に強い在来種が生長しており、これまで風を遮っていたモクマオウと交代する時期にきている。
- ・一方、各施設周辺を彩る花の咲く植物や、ゴミ置き場や、施設のバックヤードなど人目にさらしたくない場所を遮るような中低木の植栽が不十分な状況である。

■図 平面図



■図 平面図略図



■写真 現況写真

<p>写真① バンガロー</p>	<p>写真② キャンプエリア</p>
 <p>・バンガロー付近は緑が無く夏の日中は木陰もなく暑い。</p>	 <p>・樹形の乱れたモクマオウが目立つ。</p>
<p>写真③ ゴミ置き場</p>	<p>写真④ 河口部</p>
 <p>・ゴミ置き場が周りのキャンプサイトから目に付く。</p>	 <p>・河口付近の砂浜はウミガメの産卵場所となっている。</p>
<p>写真⑤ 野外ステージ</p>	
 <p>・車道や擁壁等のあまり美しくない構造物が目立つ。 ・モクマオウなどの伐採木が目立つ。</p>	

2) 具体的な整備内容

1. キャンプ場内の遮蔽植栽と修景植栽

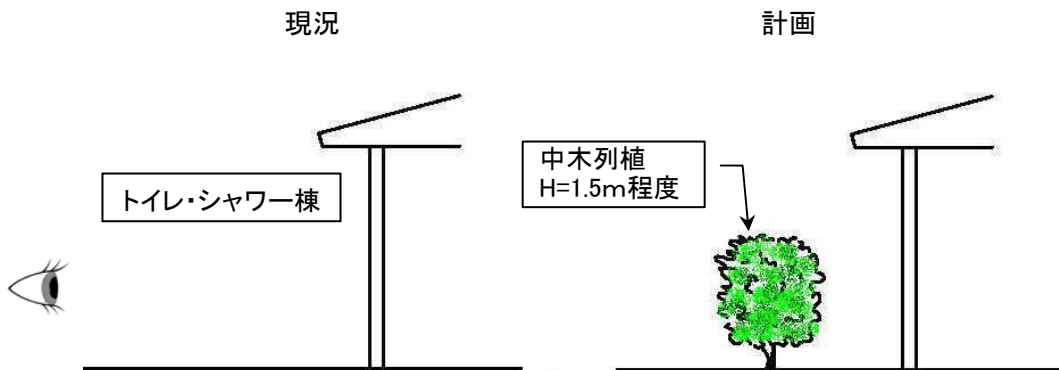
① 施設周辺の遮蔽植栽

- ・ゴミ箱やトイレの裏といったあまり目にしたくない場所に中低木を列植又は、寄せ植えして視界を遮る。
- ・防潮林が整備されて潮風を直接は受けないがやはり、潮風に強い樹種を選定する。

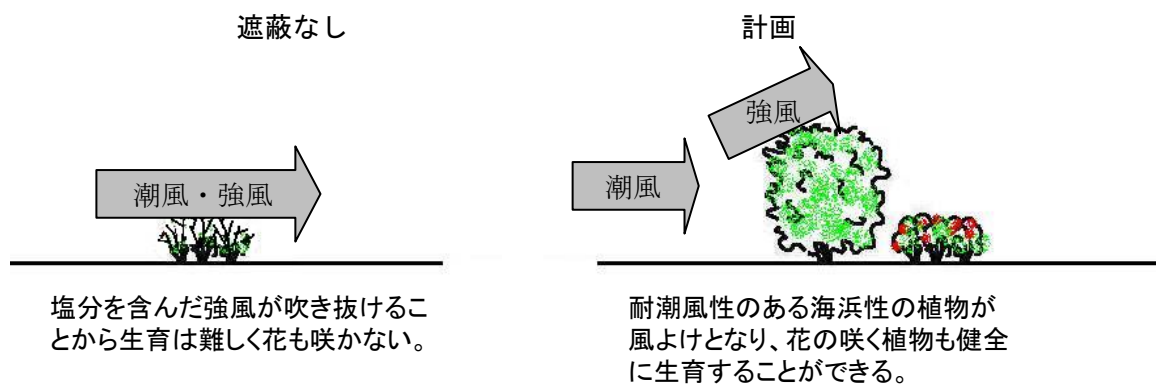
② 施設周辺の修景植栽

- ・管理棟や駐車場及び、コテージの周辺や各施設の周辺に花の咲く植物を植える。
- ・花の咲く植物は基本的に潮風に弱いため、上記の遮蔽緑化の植物と組み合わせて植栽する。

■図 遮蔽植栽



■図 遮蔽植栽と花木



■整備イメージパース（スケッチ、イメージモンタージュ）

阿真区一キヤンプ場（野外音楽堂）



- ・写真奥、道路沿いにフクギを列植し、車道や擁壁を遮断する。
- ・両端及びステージの周辺はオキナワシャリンバイ等の低木を植栽する。

2. 年次事業計画の作成

事業を進めるに当たり、各区の要望や関連する道路整備状況などを考慮し、下表の順序で整備を行うこととする。

■表 年次事業計画

年度	設 計	工 事	苗木生産
25	座間味島(3区)の実施設計	—	
	苗木生産の支援	阿真区整備工事	準備(体制確保) 生産開始
26	阿嘉・慶留間島(2区)の実施設計	阿佐区整備工事 座間味区整備工事	整備工事にあわせて 随時生産
27	村全域サイン計画・設計 ガイドマップ作成	阿嘉区整備工事 慶留間区整備工事	同上
28	—	座間味村サイン計画	

参考資料

1. アンケート

【座間味村全体】

■回答者について

結果	<ul style="list-style-type: none"> ・親と子、夫婦、一人暮らしの割合が高い。 ・70代以上が一番多く、50代以上が30%を占めている。 ・観光業が40%を占めていることから、地区全体が観光業で成り立っているといえる。 ・観光業の中でも、レジャー業が半数近くを占め、続いて宿泊業が多い。
考察	→観光業を営む住民、高齢者を巻きこんだ事業展開が求められる。

■座間味村について

結果	<ul style="list-style-type: none"> ・しまと海の風景が良いとの回答が最も多く、続いて祭り・イベント、村民とのふれあいとなっている。 ・村民とのふれあいも観光客にとっては来る理由の1つであると考えている村民が多い。 ・南国の森や集落の風景は、観光客の目的でないと考えている。 ・約90%以上の方が花や緑をふやしたい、今あるものをきれいにした方が良いと考えており、花や緑への関心が高い。
考察	<p>→しまと海の風景が良いと回答が多いが、多くの村民が集落の風景が良いとは思っていないことから、花と緑による集落の風景づくりが求められる。</p> <p>→しまと海の風景、村民とのふれあいが観光の目的であると回答が多いので、ふれあう事の多い集落内の美観を向上させることが求められる。</p> <p>→村民が行動出来るような計画が求められる。</p> <p>→本事業は村民の期待に応える意味でも必要性が高い。</p>

■管理について

結果	<ul style="list-style-type: none"> ・A問3の結果を踏まえると半数以上が花や緑はあるべきだと考えているが、行動出来ていないのが現状である。 ・その他(機会や場所が無く、やりたくても出来ない状態)という意見が多い。 ・花や緑に対する知識不足も出来ない理由として挙げられた。 ・時間が無いとの回答もあり、夏場の観光シーズンでは人手不足になる恐れがあると考えられる。 ・40%以上が地域の風景が良くなると感じている。 ・地域の魅力向上とともに観光客増加も期待している。 ・最も多かった要望は植物を配ってもらいたいことである。
考察	<p>→参加意思はあるものの、参加の機会や場所の提供がないのが実情であることから、花や緑を植えて育てる機会を作ること、場所の確保、管理体制を整える必要がある。</p> <p>→地域全体の美意識を高められる管理体制を整える必要がある。</p>

■まとめ

<ul style="list-style-type: none"> →管理体制の構築が求められる。 →年間を通して花が観賞できる植栽計画による明るいイメージ作りが求められる。 →観光地としての重要性が高いことから、スポット的な美観を向上する必要がある。
--

【阿真区】

■回答者について

結果	<ul style="list-style-type: none"> ・親と子、一人暮らし、夫婦の割合が高い。 ・40代が一番多く、60代、70代以上が続いて多い。 ・観光業とその他自営業が半数以上である。また、観光業の内訳でも複数の業種を兼業している方もいる。
考察	→観光業を営む住民を巻きこんだ事業展開が求められる。

■座間味村について

結果	<ul style="list-style-type: none"> ・しまと海の風景が良いとの回答が半数あり、続いて祭り・イベントとなっている。 ・南国の森や村民とのふれあい、集落の風景も観光客にとって来る理由の1つであると考えている。 ・約80%の方が花や緑をふやしたい、今あるものをきれいにした方が良いと考えており、花や緑への関心が高い。 ・菓草が特産品になるのではないかという意見があった。
考察	<p>→しまと海の風景、祭り・イベントが観光の目的と回答が多いので、必然と村民とのふれあいが多くなる。そのことから、集落内の美観を向上させることが求められ、集落の風景も良くなる。</p> <p>→村民が行動出来るような計画が求められる。</p> <p>→特産品となるものはあるが、継続して生産出来る体制づくりが求められる。</p>

■阿真区について

結果	<ul style="list-style-type: none"> ・阿真ビーチ、展望台の回答が多かった。 ・キャンプ場などの施設の回答が最も多く、続いて集落であった。 ・ハイビスカスを植えたいとの回答が多かった。
考察	<p>→選択肢の項目が見所として認識されているが、観光客への情報手段が少ない。そこで、見所へのアクセスを促す案内板や説明板による観光客への情報提供が必要となる。</p> <p>→島全体を通して、花や緑を植えたいという要望が見える。キャンプ場など観光客の利用する場所への希望が多く、観光客を意識した樹種・植栽箇所の抽出が求められている。</p>

■管理について

結果	<ul style="list-style-type: none"> ・育てている方、育てていない方の割合がほぼ半数ずつであった。 ・参加意思は半数以上があるものの、機会がないと考えられる。 ・40%以上が地域の風景が良くなると感じている。 ・地域の魅力向上とともに観光客増加も期待している。 ・継続していくことが必要である。
考察	<p>→育てている方と育てていない方の割合がほぼ半数であることから、美意識が高いと考えられる。</p> <p>→島全体を通して、花や緑を植えたいという要望が見える。</p> <p>→参加意思はあるものの、参加の機会や場所の提供がないのが実情であることから、花や緑を植え育てる機会を作ること、場所の確保、管理体制を整える必要がある。</p> <p>→やる気はあるが、維持管理面、場所、植物入手についての不安が見える。したがって、行政と地域住民の協力のもと維持管理体制を構築することが求められる。</p>

■まとめ

<p>→管理体制の構築をする。</p> <p>→年間を通して花が咲いている植栽計画による明るいイメージ作りが求められている。</p> <p>→観光客の立場に立った計画が求められている。</p>
--

2. ヒアリング

ヒアリングの結果以下のような住民の声や思い、要望があった。

【座間味村 全域】

- ・昔から各展望台にいたる沿道や展望台周辺には、ケラマツツジ、サクラなどを植栽しており、きれいに咲いた時期もあった。
- ・昔は、カツオを蒸すために松の木を燃料として使っていたので松の木を造林していた、他にイスノキなども植えていた。
- ・最近では、山道を散策する人も増えており、散策路の整備も重要である。
- ・H15～18年頃にも「花の森構想」があったが実現しなかった経緯がある。
- ・ツツジをもっと村外にアピールしてほしい。
- ・島に植栽チームをつくって活動してほしい、特にまとめ役となるリーダーが必要。
- ・案内板が不十分である。、村全体で統一感を持ってつくられると良いと思っている。
- ・カラスが、グアバやシークァーサーなどの果樹を食害するので駆除してほしい。
- ・集落の中心部は特に建物の統一感があると良いと思う。(ブロック塀を生垣で統一するなどできることから始めれば良いと思う。)
- ・集落の中に季節を感じる草花がたくさん植えられると良い。
- ・冬場はやや時間があるので、植栽管理など地域のボランティア活動などには積極的に参加したい。
- ・植栽した植物が定着するまでの水やりなどのフォローをしっかりと行ってほしい、例えば、水をかける時の取水場の提供や、その料金負担などしっかり考えてほしい。
- ・道路の植栽管理などを、区ごとに競わせ良いところに表彰しても良いのではないかな。
- ・植樹する樹木をオーナー制にして管理してもらう方法も良いのではないかな。個人だけでなく団体でも良いと思う。
- ・管理体制が続けられる仕組みにしてほしい。例えば村の担当もすぐに変わりそこでとぎれてしまう事が多いので継続できる仕組みを考えてほしい。
- ・植栽材料はできる限り、村外から持ち込まず地元で生産した材料を使って植樹してほしい。
- ・資料館を設置し、慶良間諸島固有のケラマジカについて展示したり、ツツジ園、ヤマモモ園などのミニ植物園などの整備ができれば良いと思う。

【阿真区】

- ・十年以上前から高校の修学旅行のイベントとして植樹祭を行い、山中に植樹をしてもらっている。
- ・植樹祭ではイスノキ、イヌマキを植えていたが、最近は果樹やサクラを植えてもらっている。
- ・植樹した場所の下草刈りなどの管理が十分ではないので、村の協力も必要だである。
- ・避難道にサクラを増やし、冬季の閑散期に「サクラ祭」を開催し、ホエールウォッチングと組み合わせる観光を盛り上げていきたいと考えている。
- ・今後、様々な事業を積極的に行っていきたいと考え、阿真区は法人格を取得している。
- ・現在活用されていない阿真区のハウス等は生産拠点として積極的に活用すべきである。
- ・雇用を確保の面からも島内で苗木を生産する体制を構築し将来的には、島外へ出荷し収益を得ることも考えるべきだと考えている。